

## 銀賞

なくてはならない浄化センター

永谷 緋沙菜

小郡市立小郡小学校

わたしは、社会科見学で、福童浄化センターに行きました。そこでは、よごれた水がどのようにきれいになっていくのかを教えてくださいました。

よごれた水は、浄化センターにつくとまず、沈砂池に行きます。ここでは、大きなゴミや土砂などをとりのぞきます。次は、最初沈でん池です。汚水をゆるやかに流して、小さなゴミなどを沈める所です。その次は、反応タンクです。汚水にび生物が入った活性汚泥をまぜて、空気をふきこんでよごれを沈みやすくします。ここを通りすぎると、最終沈でん池です。分解して沈みやすくなった有機物を沈めて、しよりした水と汚泥にわけます。これで終わりではありません。しよ理した水を消毒して、水質検査でしよ理した水が川や海へ流せるかどうかを検査します。そして、川や海に放流されるのです。

見学の中で、初めに、流入下水を見ておきました。流入下水は、茶色くて、へんな、くさいにおいがしました。その汚水が放流水では、においはくさくなくなっていて、きれいになっていたので、すごいと思いました。

一番すごいと思ったのは、び生物を使ってよごれをしよみやすくしていることです。び生物は、0.03mmくらいで、目に見えないくらい小さな生き物でした。そんなび生物が、水をきれいにすることに、とても役に立っていることにおどろきました。

毎日、あたりまえの様にたくさん使っていた水が、いろいろな処理をされて、川や海へ放流されていると知りました。

もし、浄化センターがなかったら、川が汚れて、魚が住めなくなったりするし、海も汚れてしまいます。そうなると、わたしたちの生活によいとは、言えません。なので、浄化センターは、なくてはならないと思いました。

はたらいっている人の話で、油を流されると、きれいにするのに、大へんになるそうです。だから、わたしは、家で、フライパンにのこった油をふき取ったり、使った油をペットボトルに入れて、リサイクルに持って行ったりすることを手つだいたいと思いました。

わたしは、見学に行くまで、自分が使った水がどうなるのか、考えたことがありませんでした。見学に行ってきたきれいな水の大切さを知って、とても勉強になりました。これからも、新聞やニュースなどで、水について、勉強していきたいです。